

佐賀県県民協働課長 様

住 所 小城市小城町544-1  
団 体 名 特定非営利活動法人ようこそ小城  
代表者職・氏名 理事長 山口則幸  
電話番号 0952-20-5544

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による  
寄附金活用実績報告書

令和3年度において当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して下記のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 活用実績報告書（様式第7号 別紙1）
- 2 収支決算書（様式第7号 別紙2）

令和3年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

団体名 特定非営利活動法人ようこそ小城

1 事業実施期間 令和3年 4月 1日から 令和4年 3月 31日まで  
小城市の市民活動支援事業

2 事業の成果（県民の便益にどのようにつながったのかについて記載）

※提出期限までに成果・効果を示すことが困難な場合は、成果・効果の見込みを記入してください。

- ・自主事業として「ヨガ」「パソコン教室」「スマホ教室」「カメラの撮り方教室」を行い、新たに「レザークラフト講座」を開設しました。「ヨガ」事業は毎週土曜日に定着し、コンスタントに集客が出来るようになりました。参加者の3分の1が肩こり・腰痛が改善したとのことでした。「パソコン教室」「スマホ教室」では週2回の開催が定着してきました。参加者の全員が住所録の登録・活用ができたとのことでした。「カメラの撮り方教室」や「レザークラフト講座」では新しい参加者を呼び込むことができました。カメラ教室では被写体別の写真の撮り方が習得できたとのことでした。レザークラフト講座では参加者全員が本人の欲しいもの（キーホルダーや眼鏡ケース等）が自分で出来ることに満足できたとのことでした。
- ・本年度も引き継ぎ「ふるさと・夢つむぎネットワーク」「小城フットパスクラブ」「小城ファシリテーション研究会」「笑うて暮らそうやっ会」などの団体を中心に助成金の獲得、事業獲得などの団体運営の支援を行い、活発に事業を行う事が出来ました。特にSNSを活用したメンバーとの意思疎通が良くできるようになった、とのことでした。
- ・環境活動の一環として牛尾山に2反の耕作放棄地を借り受け、開墾・ブルーベリー、レモンなどの植栽を行いました。
- ・新たにこども宅食事業に進出し「にじいろぼけっと」という団体を立ち上げ、活動を始めました。配達先も40件に達しました。10名以上にメンバーも増え、メンバーの役割分担も確立してきました。本年は、こども宅食事業展開のため11月より法人の事務所を小城町の1軒屋に移し事務所と倉庫を兼ねて事業展開の幅を広げました。

3 寄附金を活用して行った事業の実施に関する事項

(1) 今年度寄附金を活用して行った事業（GCFを行った場合はGCF名とその内容を記載）

事業名	具体的な事業内容	(A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の支出金額 (単位：千円)
①地域の環境を守る事業	・「ふるさと・夢つむぎネットワーク」や「笑ろうて暮らそうやっ会」の助成金取得や協働での活動の実施 ・「ふるさと・夢つむぎネットワーク」毎週三里の山での梅畑の整備、開墾地などの草刈り。 ・「笑ろうて暮らそうやっ会」でセブン・イレブン記念財団の	(A) 通年牛尾の山 約毎月15日間 (B) 牛尾の山 石体 (C) 延べ300名	(D) ふるさと 夢つむぎ ネットワ ークの会 員及び三 里の住民 I. IIは笑 うて暮そ うやっ会 のメンバ	800

	<p>助成金を獲得、石体で花植え活動を2回行った。Ⅰ、Ⅱ新たに2反の耕作放棄地をNPO 法人ようこそ小城中で借用開墾を実施した。</p>		<p>一及び石体の住民)</p> <p>(E) 延べ 500名 Ⅰ. 10名 Ⅱ. 9名</p>	
②ICT の普及に関する事業	<p>ア. パソコン教室の運営支援 パソコン専任講師 (2名) を依頼、月に2回 (主に第1、第3木曜日)、約2時間、初心者から上級者を対象に、ワード及びエクセルの操作方法を丁寧に教える講座を実施した。 パソコンの修理にも対応していく。出張指導もあり。</p> <p>イ. スマホ教室の運営支援 NTTドコモ三日月店と協働で月3~5回の勉強会を開催。ドコモショップより職員2名を派遣してもらい参加者の使用上のお困りごとを解決した。コロナ禍のため1回6名に制限している。</p>	<p>(A) ア. 24日 イ. 40日</p> <p>(B) ゆめぶらっと 小城中会議室</p> <p>(C) 各2名</p>	<p>(D) 小中市民</p> <p>(E) ア. 85名 イ. 156名</p>	200
③市民活動に取り組む当事者間及び公共部門又は民間部門との連携事業	<p>小中フットパスクラブとの連携事業 小中市内のフットパスコース (全3コース) が完成 小中市内にあるフットパスコースにおいて、当団体会員が参加者をガイドしながらコース内を周遊し、町の魅力を再発見するとともに、当団体会員及び参加者間における交流を図った。また、小中商工会議所、伊万里市、川上校区、吉野ヶ里町と連携して、フットパスの繁栄に寄与していく。 本年度は晴田で2コースをつくる予定。</p>	<p>(A) 毎月第4土曜日例会</p> <p>(B) 小中全域 佐賀県内</p> <p>(C) 22名</p>	<p>(D) 小中市民を中心に佐賀県内のフットパスに関心のある人</p> <p>(E) 300名</p>	150

④健康増進に関する事業	<p>ヨガ事業</p> <p>毎週土曜日（午前・午後開催）、毎回1時間半のヨガ教室を開催し、参加者の健康増進と交流を図った。</p>	<p>(A) 50日</p> <p>(B) ゆめぷらっと小城、牛津公民館</p> <p>(C) 2名</p>	<p>(D) 小城市民佐賀県民</p> <p>(E) 300名</p>	300
⑤地域コミュニティづくりに関する事業	<p>小城ファシリテーション研究会との連携事業</p> <p>当団体会員が依頼を受けた団体の会議に参加し、会議を円滑に進めるためにファシリテーションを行った。月に1回会合を開き、スケジュール調整や講師を招いた勉強会を開催し、会員間の定期的な交流及び能力向上を図った。</p>	<p>(A) 毎月第二水曜日定例会</p> <p>(B) ゆめぷらっと小城、会議室又は依頼団体の指定の場所</p> <p>(C) 6名</p>	<p>(D) 小城市民を中心に佐賀県民</p> <p>(E) 60名</p>	30
⑥地域福祉に関する事業	<p>「にじいろぼけっと」との連携事業</p> <p>「子ども宅食事業」を行い生活困窮子どもとその家族を小城市全体で募集し、宅食に当たった。学生服のお譲り会、通学ヘルメット贈呈を行う。毎月1回、応募のあった家庭（約35所帯）に市民から集めた商品（お米や文房具など）を配達した。また、企業からの寄付（現金・商品）で不足品の購入と配達を行った。今後は、助成金も活用していく。また、佐賀市からの要望にも応えていく。</p>	<p>(A) 毎月第4土曜日</p> <p>(B) 当法人事務所</p> <p>(C) 10名</p>	<p>(D) 小城市民を中心に佐賀県民でひとり親などの貧困世帯</p> <p>(E) 200名</p>	652

(様式第7号 別紙2)

収 支 決 算 書

区 分		決算額 (円)	備 考
収 入	佐賀県ふるさと寄附金	3,612,000	第1回交付 2,675,000
			第2回交付 283,500
			第3回交付 503,500
			第4回交付 150,000
	収入計	3,612,000	
支 出	○事業名 小城市の市民活動支援事業		
	謝金	150,000	
	人件費	950,000	
	印刷製本費	50,000	
	消耗品費	380,000	
	使用料・賃借料	30,000	
	備品	572,000	
	返礼品等の調達に係る費用	1,050,000	返礼品調達費 (寄附額の3割以下)
	返礼品等の送付に係る費用	70,000	返礼品梱包及び送料
	ふるさと納税の広報に係る費用	10,000	ふるさと納税カタログ作成費等
	ふるさと納税の事務に係る費用	350,000	「ふるさぼさが」「竹内氏」への業務委託費 (寄附額の各1割)
	支出計	3,612,000	

○GCF を行った場合は、GCF の事業単位で支出を区分して記載してください。その他の事業についてもできるだけ事業単位で記載してください。

○支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費、使用料等に分けて記載してください。経理上の区分名で記載して構いません。

○領収書等は事業終了後5年間保存してください。